

令和 6 年(2024 年)第 1 回 登録標識・路面標示基幹技能者講習(路面標示) 修了試験問題

修了試験実施日：令和6年(2024年)7月19日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切り、カバンの中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受講番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思う番号を解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から30分が経過するまで及び試験終了10分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 質問、体調不良、退室希望等は静かに挙手をしてください。
- ⑦ 試験問題は終了後に持ち帰ることができます。
- ⑧ 試験終了の合図があったら筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は試験終了後約1週間後に全標協ホームページに掲載します。
- ⑩ 合格発表は令和6年(2024年)8月30日に全標協ホームページに掲載します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

【基幹技能者一般知識】

問 1

登録基幹技能者に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 登録基幹技能者は、国土交通大臣の登録を受けた機関が実施する技能者講習を修了することにより認められる。
- ② 登録基幹技能者は、主任技術者として認められている。
- ③ 登録基幹技能者は、災害対応を含む地域維持の担い手として認められている。
- ④ 登録基幹技能者は、監理技術者として認められている。

問 2

建設キャリアアップシステム(CCUS)に関する次の記述のうち、最も不適切なものどれか

- ① 技能者の能力評価は 5 段階で評価され、登録基幹技能者はレベル 4 に位置付けられている。
- ② 技能者の現場における就業履歴や保有資格などを蓄積することにより、処遇の改善や技能の研鑽を図ることを目指す。
- ③ 個々の技能者の能力を評価することが可能となった。
- ④ 能力評価とレベルごとの年収目安の明確化による、賃金水準の相場形成が可能になる。

問3

登録基幹技能者に求められる技能に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 物事の重要度、緊急度に関わらず、上司に報告の上、指示に従って行動する。
- ② 品質管理に係る基本的な知識を有し、工事工程表に基づき工程の進捗管理を行う。
- ③ 他職種との折衝、調整を行い、工事の円滑化を図るとともに、部下の指導、教育を計画的に行う。
- ④ 現場に適した技術面からの施工方法、作業手順、工夫の提案能力を有する。

問4

OJTに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① OJTは、教育訓練計画を策定し効率的に行うため集団的に指導する。
- ② OJTは、組織外の実態、考え方などに触れて視野を拡大する機会を提供する。
- ③ OJTは、指導・教育の基本認識として継続的に実施し、一方で仕事のペースは落とさず、OJTの実施が業績低下の言い訳になってはならない。
- ④ OJTとは、上司の仕事そのものであり、片手間にとか暇があるからという考えではなく仕事であるという認識をもつことが大切である。

問 5

働き方改革に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 監理技術者を専任で置かなければならない建設工事において、代わりに監理技術者補を専任で置くことができる。
- ② 特定の専門工事について、元請負人が専任で置く主任技術者は下請負人が置くべき主任技術者の職務を合わせて行うことができる。
- ③ 建設工事の発注者は通常必要と認められる期間に比べて著しく短い期間を工期としてはならない。
- ④ 元請負人は、下請代金のうち労務費以外に相当する部分については現金で支払うよう適切な配慮をしなければならない。

問 6

特定元方事業者等の講ずべき措置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 安全衛生協議会は、現場所長・統括安全衛生責任者が議長となり、現場の職長と災害防止に関する協議を行う。
- ② 朝礼、毎日の作業打合せ等で、元請業者と下請業者又は下請業者間の連絡及び調整を行う。
- ③ 週 2～3 回程度作業場所を巡視する。
- ④ 元請業者が下請業者の作業員に対し安全衛生教育を行う。

問 7

道路法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路法は、道路網の整備、管理、構造、保全、維持等を定め、もって交通の発展に寄与し、公共の福祉を増進することを目的としている。
- ② 道路管理者は、道路を常時良好な状態に保つように維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。
- ③ 国土交通大臣は、災害が発生した場合において、都道府県又は市町村からの要請に関わらず、補助国道、都道府県道又は市町村道の道路啓開や災害復旧工事を行うことができる。
- ④ 各高速道路会社の管理する有料道路は、道路整備特別措置法に基づく権限代行制度の一つである。

問 8

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 公安委員会は、道路における危険を防止するため、交通の規制をすることができる。
- ② 警察署長は、道路の交通に起因する障害を防止するため、交通の規制をすることができる。
- ③ 高速自動車国道においては、交通警察に関する事務を処理する警視以上の警察官(例えば、高速道路交通警察隊長)が交通の規制をすることができる。
- ④ 交通巡視員は、手信号により警察官と同様の交通整理を行うことはできない。

問 9

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 12 年、交通バリアフリー法の施行にともなって著名地点を表示する案内標識には地図(略地図を含む)を附置することができることとなった。
- ② 令和 2 年道路法の改正により、特定車両停留施設が道路附属物として設置できることになり、「広域災害応急対策車専用(325 の7)」が新設された。
- ③ 東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う「大会関係車両等専用通行帯」を表示する規制標識は、期間を限定して使用するため附則で規定された。
- ④ 令和 5 年、遠隔操作型小型車(自動配送ロボット等)は歩行者と同様の交通ルールが適用されることになった。

問 10

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 29 年、国際化に対応するため、「徐行(329)」標識には、必ず SLOW を併用表示することになった。
- ② 令和 2 年、「歩行者等横断禁止(332)」標識について、子供も読めるように「横断禁止」の文字を「わたるな」と平仮名を用いることができることになった。
- ③ 令和 5 年、特定小型原動機付自転車(電動キックボード等)の交通方法が決められたため、「自転車専用(325 の2)」標識は「特定小型原動機付自転車・自転車専用(325 の2)」に名称が変更となった。
- ④ 令和 5 年、規制標示「普通自転車歩道通行可(114 の 2)」は「特例特定小型原動機付自転車・普通自転車歩道通行可(114 の 2)」に名称が変更となった。

問 11

道路の移動円滑化に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 歩道の有効幅員は、歩行者の交通量の多い道路は 3.5m 以上、その他の道路は 2m 以上と規定されている。
- ② 障害者用駐車施設の数、駐車台数が 200 以下の場合には 20 分の 1 以上設けるものとする。
- ③ 立体横断施設に設けられる通路、傾斜路、階段等には手すりを設けることを規定し、その寸法等を例示している。
- ④ ハンプの構造は、高さは 10cm、平坦部の長さは 2m 以上を標準とする。

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

問 12

施工管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工管理の究極の目的は、品質(より良く)、工期(より早く)、価格(より安く)の三大要素に集約される。
- ② 施工管理の主な内容は、品質管理、原価管理、工程管理の 3 つに分類される。
- ③ 施工管理は請負契約を確実に履行するための手段である。
- ④ 適切に施工管理を行うためには、計画(Plan)、実施(Do)、検討(Check)、処置(Action)の4段階のサイクルを繰り返し実行することが基本となる。

問 13

施工計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工計画の流れは、事前調査→実施計画→詳細計画である。
- ② 全体のバランスを考え、作業の過度な集中を避ける。
- ③ 全体工期、全体工費に及ぼす影響の大きい工種を優先して考える。
- ④ 高度な技術が要求される工種や、安全面で危険性の高い工種を重点的に考える。

問 14

作業計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業手順書は、登録基幹技能者や安全衛生責任者が中心となって、作業員の意見を聞き、それらを加味して作成することが望ましい。
- ② 作業手順書は、作業上の手戻り、不具合や作業中の事故・労働災害が発生した場合には、速やかに改善し、定期的に見直すことも必要である。
- ③ 作業手順書の作成上の留意点は、設計図面、特記仕様書を優先して作成する。
- ④ 作業手順書は、誰がやっても基準どおりに同じ結果が得られるように作成する。

問 15

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業可能日数は、現地の地形、地質、気象等の自然条件を十分に調査し、対象工事の技術的特性を考えて算定する。
- ② 作業可能日数は、1日当たりの平均施工量÷工事量で算出する。
- ③ ネットワーク式工程表は、作業手順、作業の相互関係がわかり、工期に影響を与える作業を重点的に管理することができる。
- ④ 斜線式工程表は、トンネルや舗装工事のように工事区間が線状に長く一定方向に進捗し、比較的工種が多い工事に用いる。

【原価管理】

問 16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 原価要素は、建設工事では、材料費、経費、外注費の3原価要素に分類するのが一般的である。
- ② 元請負人及び下請負人は見積時から法定福利費を必要経費として適正に確保することが必要である。
- ③ 予算実績管理は、実行予算と実績を比較しながら差異を把握し、目標利益を達成することが困難な場合は直ちに原価低減の活動を実行する。
- ④ 土工事の見積では、土量は縦×横×深さで土の積込み土量を計算するが、土量の変化率は留意する必要がある。

【品質管理】

問 17

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 品質を構成する特性を品質特性という。品質特性は具体的な数値で表示されることが望ましく、それを品質特性値という。
- ② 現在の「品質」という用語は、ISO 規格によって「本来備わっている特性の集まりが要求条件を満たす程度」という定義に改められている。
- ③ 施工品質は、施工実態やコスト等を考慮して、無理なく実現できるように元請負人が決める品質である。
- ④ 品質には設計段階で定める設計品質(ねらいの品質)と施工段階で実現する施工品質(出来ばえの品質)がある。

問 18

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① JIS では、品質管理を「買い手の要求に合った品質の物又はサービスを経済的に作り出す」と定義している。
- ② 散布図とは、時間の経過による品質特性値の変化を追うものである。
- ③ 特性要因図とは、品質上問題となっている特性(結果)と、それに関係する要因(原因)の因果関係を魚の骨のような形に整理した図である。
- ④ ISO9001 は、製品の品質を担保、保証するシステムを事前に文書化して、それに対して第三者から認証を受け、それを消費者に開示する仕組みである。

【安全管理】

問 19

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 公道上での作業においては、作業帯内に通行車両の進入を防止するため、囲い、柵、ガード等の保安設備を設置し、誘導員を配置する。
- ② 高さや深さが2mの場所では、昇降設備がなくても昇り降りができる。
- ③ 高さ3mの高所から物を投げ落とすことは、投げ落としても危険がない設備がない限り、禁止である。
- ④ 脚立の正しい使い方は、
 - イ)天板に乗らない
 - ロ)身を乗り出して作業しない
 - ハ)脚立を背にして降りない
 - ニ)昇降時に手を空けておくなどがある。

問 20

労働災害における民事損害賠償責任で、事業者が負うべき責任のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 不法行為責任
- ② 発注者責任
- ③ 使用者責任
- ④ 債務不履行責任

【路面標示の設置】

問 21

路面標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示には、標識令に規定されている区画線と道路標示のほか、交通の安全と円滑の確保のために用いられている法定外の路面上の表示がある。
- ② 路面標示は、路面標示用塗料又は道路鋳、石又はこれに類するものなどを用いる。
- ③ 法定外表示は、交通事故防止上有効であるなどの理由で設置される。
- ④ 路面標示は、区画線では白色のみ、道路標示では黄色のみが用いられている。

問 22

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「立入り禁止部分」は規制標示である。
- ② 「自転車横断帯」は指示標示である。
- ③ 「路上駐車場」は区画線である。
- ④ 「停止線」は規制標示である。

問 23

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 中央帯における側帯幅員は、第3種1級から4級の道路では、0.50mである。
- ② 「車道中央線(101)」(実線2本)の実線間隔は0.10m~0.15mである。
- ③ 中央帯は、1本の線の場合は線の中心、複線(実線2本)の場合はその線間の中心から車線幅員をとる。
- ④ 道路構造令による車道構成諸元によると、第3種1級(普通道路)の車線幅員は3.5mである。

問 24

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 停止線又は横断歩道がある場合、「車線境界線(102)」は停止線までとし、停止線より先の交差点内には設けない。
- ② 「進行方向別通行区分(110)」(矢印)の配置は、停止線直前及び30m実線の端末に揃え、その後に必要があれば予告矢印を設置し、全ての矢印は破線とする。
- ③ 信号交差点では、原付、二輪車等の事故を防ぐために、二段停止線を設置することができる。
- ④ 左折車線は、交差点が鋭角な場合や、左折車と横断歩行者が多く、左折待ち車両が直進交通を妨害する場合に設置する。

問 25

区画線に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「車道外側線(103)」の幅は、設計速度 80km/h以上の自動車専用道路では 0.20mである。
- ② 「車線境界線(102)」(破線)の長さは、標識令の規定では、3.0m～10.0m である。
- ③ 「車道中央線(101)」(実線 1 本)の都市部の道路における標準値の幅は、0.15m である。
- ④ 「車道中央線(101)」は、車道の幅員が 5.5m以上の区間内の中央に設置する。

問 26

道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「普通自転車の交差点進入禁止(114 の 4)」を設置する場合は、道路標識の定めがないため、道路標示のみを設置している。
- ② 「進行方向別通行区分(110)」は、道路標示の設置を原則とし、併せて道路標識を設置する。
- ③ 「停止禁止部分(107)」は、色彩は白色で寸法は状況に応じて異なる。
- ④ 「進路変更禁止(102 の 2)」を設ける場合は、道路標識と道路標示双方を設置する。

問 27

道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「斜め横断可(201の2)」は、歩行者がスクランブル信号制御交差点において斜めに横断できることを指定した場所に設置する。変形交差点での表示方法は(L1=0.45m~0.5mL2=1.0m~1.5m)である。
- ② 路面電車の停留場に島状の施設がない場合、「路面電車停留場(209)」を設置する。幅及び長さは停留場の形状によって変更できる。
- ③ 法令上の要件として道路標識及び道路標示の双方の設置が必要と定められているのは、「停止線(203)」「島状の施設以外の安全地帯(207)」である。
- ④ 標識標示主義とは、その場所において適用される交通に関する規制の内容は、道路標識又は道路標示によって示すことを原則とし、道路標識、道路標示による規制が法定の規制に優先して適用される。

【路面標示の材料・施工】

問 28

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 1種(常温)、2種(加熱)の溶剤系塗料における塗膜の乾燥は、有機溶剤が揮発し、合成樹脂の還元、冷却固化により塗膜が硬化する。
- ② 2種(加熱)の溶剤系塗料は、合成樹脂、着色顔料、体質顔料に添加剤を入れて有機化合物と練り合わせたものである。
- ③ 1種(常温)の路面への固着機構は物理的接着である。
- ④ カラー(熔融)塗料の路面への固着機構は、アスファルト舗装の場合は、熔融結合である。

問 29

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 1種(常温)塗料の拡散反射率は、光学的な性能項目で路面標示の視認性、すなわち白い塗膜の明るさの程度を判定する重要条件である。
- ② 1種 A(常温)塗料の低温安定性試験は、 -5°C の条件で塗膜が変質しないかを判定する基準となる。
- ③ 1種 A(常温)塗料の黄色塗料は、クロムが塗膜中に含まれているかを測定する試験が規定されている。
- ④ 1種(常温)塗料のタイヤ付着性試験は、「10 分後に塗料がタイヤに付着しない」と規定されている。

問 30

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 2種(加熱)塗料の低温造膜性試験は B のみに適用される試験である。
- ② 2種(加熱)塗料の耐摩耗性(100 回転当たりの摩耗減量 mg)は 500 以下でなければならない。
- ③ 2種 A(加熱)の拡散反射率は、路面標示の視認性、白い塗膜の明るさを判定する。
- ④ 2種 A(加熱)塗料の耐水性試験は、塗膜の水分による膨れ、割れ、剥がれ、しわ、色の変化などに対する試験である。

問 31

路面標示用塗料(JIS K5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 3種(熔融)塗料の軟化点の低いものは、夏季では塵土の付着が多く、車輪による圧延現象が生じる。
- ② 3種(熔融)塗料の軟化点は、80℃以上である。
- ③ 3種1号(熔融)塗料のガラスビーズの含有量は20～23%でなければならない。
- ④ 3種(熔融)塗料の屋外暴露耐候性試験では、試料を12か月間屋外暴露し、割れ、剥がれ及び色の変化の程度を調べる。

問 32

路面標示用ガラスビーズ(JISR3301:2014)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① JIS規格の路面標示用ガラスビーズの外観は、球形の粒子であり、だ円、鋭角、不透明、異物等の混入率は、20%以下と規定されている。
- ② 路面標示用のJIS規格ガラスビーズの材質は、ソーダ石灰ガラスである。
- ③ JIS規格の路面標示用ガラスビーズの屈折率は1.65～1.85である。
- ④ 路面標示用ガラスビーズの鉛含有量は200mg/kg以下に規定されている。

問 33

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① エアレススプレー方式ではラインエッジ部分の透けやパターンの波打ち(サージング)を生じやすい欠点があり、機種を選定が重要である。
- ② 3種(熔融)塗料の噴射式やフローコーター式では、ラインマーカの走行速度と単位時間当たりの塗料吐出量などから塗膜厚が決定される。
- ③ 噴射式ラインマーカの噴射機構は、2本(又は1本)のローターを高速回転させ、その反発力と遠心力により路面に噴射する方式である。
- ④ 1種(常温)、2種(加熱)の溶剤系塗料の保管については、危険物第4類第1石油類に分類され、指定数量が300リットルと規定されている。

問 34

路面標示塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 3種(熔融)式施工で発生する小さな膨れやピンホールなどは、路面の小孔から水蒸気が上昇することなどが原因と考えられる。
- ② 熔融式工法でのプライマーの塗布量は、多すぎても不足しても接着力を弱める。
- ③ 3種(熔融)の夜間反射性能については、反射輝度及び視認可能距離などに関する規格はないが50m前方から見えることが望ましい。
- ④ 排水性舗装の空隙確保のために、熔融式工法では噴射式やフローコーター式が用いられている。

問 35

路面標示の点検・塗り替えに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 積雪地域で毎年塗り直しが必要となる道路では、特に経済性を考慮して工法を選択しなければならない。
- ② 路面標示の材料の種類が極めて多いことから、材料の選択に当たっては強度、耐久性、効用などに十分注意しなければならない。
- ③ 全国の道路総延長は膨大な量となっており、路面標示の点検には多大な費用と時間を要する。
- ④ 道路の状況、交通状況により、夜間の視認性を確保する必要があるところでは、塗り替えの際、ガラスビーズが多く混入された塗料又は滑り止め効果の高い材料を採用するのがよい。

問 36

路面標示の塗り替え基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 目視評価ランク 3 以下では、舗装路面が露出している場合は、路面の不陸(凹凸)を考慮しても 1mm 前後は摩耗していることになる。
- ② 目視評価ランク 1 の評価内容は、「緊急措置段階」であり、摩耗、剥離が進行し、標示の形状、機能がほとんどない状態である。
- ③ 白の標示では、夜間の視認性に必要な反射輝度は $100\text{mcd}/\text{m}^2\cdot\text{lx}$ を超える平均値が必要とされている。
- ④ 色差の測定は、道路標示白色見本との色差 ΔE を測定する。

問 37

路面標示の耐久性調査に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 目視評価ランク 3 以下が 50% に達する期間は、密粒舗装ではおおむね 18 か月、排水性舗装では 15 か月となっている。
- ② 調査項目としては、交通量による摩耗度の違い、舗装種別による違い、走行速度による違い、気象条件や積雪による影響などがある。
- ③ 調査は、様々な交通量の道路で、それぞれ何か月で路面標示を塗り替えるべきか定点観測する。
- ④ 耐久性調査を実施する際の調査箇所は、道路交通センサスの交通量が公表されているので、当該センサス対象路線から抽出することが望ましい。

問 38

路面標示の消去及び調査に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 自動運転・運転支援技術の普及が進むと、路面標示の重要性が高くなる。
- ② 路面標示の消去は、作業時の騒音、振動、粉塵の発生などの問題もあるので、路面の状況、道路環境、工費等を考慮して工法を選択する。
- ③ 従来の路面標示の塗り替え調査では、調査員の主観に左右されることが多く、調査結果のばらつきが指摘されている。
- ④ 燃焼法はバーナーによる燃焼方式であり、一般に路面を痛めるため適さないが、作業効率は最も良い。

【法定外表示等の設置】

問 39

法定外表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 法定外表示等の設置及び管理に当たっては、各都道府県警察と道路管理者とで設置内容や設置主体等を含めて調整を図ることとなっている。
- ② 法定外表示は、歩行者及び車両等の運転者が一見してその意味するところが理解できるものであり、道路標識等の様式と類似の形態とする。
- ③ 「ハンプ路面表示」は、車両進行方向のハンプすりつけ部に配置することとし、一方通行の道路においては、中央付近に路面表示を設置する。
- ④ 「統一を図る法定外表示」は、軽微な寸法の修正を除き、警察庁通達に掲げられている仕様と異なるものを設置しないこと。

問 40

法定外表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 標準仕様を定める法定外表示の仕様については、道路状況、地域特性等に応じ、これらと異なるものも認められている。
- ② 統一化を図る法定外表示には、「環状交差点における路面表示」や「進行方向別通行区分」の予告表示等がある。
- ③ 「進路変更禁止」の注意喚起表示は、進路変更禁止の規制区間の手前の車両通行帯境界線のペイント等がない部分に設置し、色は白色とする。
- ④ カラー舗装には、バスレーン関係や「歩行者・自転車利用者等保護のためのカラー舗装」がある。

問題は以上です

登録標識・路面標示基幹技能者講習 解答用紙

2024-1路面標示

受講番号

氏名

共通は標識にリンク

【基幹技能者一般知識】

1	2	3	4
4	1	1	1

【建設業法・安衛法】

5	6
4	3

【道路法・道路交通法】

7	8
3	4

/8

【標識令改正】

9	10	11
2	1	2

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

12	13	14	15
2	1	3	2

/7

【原価管理】

16
1

【品質管理】

17	18
3	2

【安全管理】

19	20
2	2

/5

共通 合計

/20

【路面標示の設置】

21	22	23	24	25	26	27
4	4	1	2	3	4	3

/7

【道路標示の材料・施工】

28	29	30	31	32	33	34
1	4	1	3	3	4	3

/7

【路面標示の維持管理・塗り替え基準】

35	36	37	38
4	4	2	4

【法定外表示の設置等】

39	40
2	3

/6

専門 合計

/20